

専門的アーカイブの拡充（資料閲覧室運営）（③企07-15-5/5）

目 的

文化財関連資料の公開機関としての周知の広がりをつまみ、①受け入れた文化財関連の図書などの文字資料や、作成したアナログ・デジタル画像資料の登録管理、②閲覧室で月・水・金の週3回の一般利用者へ所蔵資料の提供、③データベースの作成、検索システムの構築・ウェブサイト上での諸情報の提供を通常業務とするとともに、提供する資料や情報の質に主眼を置き、より専門性の高い文化財関連資料や情報の収集・構築・公開の場として専門的アーカイブの充実を図る。

成 果

1. 文字情報・画像資料のデジタル化と目録化を継続して行った。
 - ア) 当研究所が架蔵する展覧会図録の韓国語データ入力を行った。
 - イ) 当研究所が架蔵する美術館・博物館等の館報の入力を行った。
 - ウ) 東京美術倶楽部と共同研究を行い、戦前刊行分の売立目録のデータ入力を行った。
2. 明治・大正期刊の雑誌類のデジタル化を継続して行った。
 - ・貴重書（山中商会の売立目録）のデジタル化を行い、公開準備をすすめた。
3. より広く当研究所の情報を発信するために国内外の機関との連携を模索した。
 - ア) 2015（平成27）年6月にアメリカ・ゲッティ研究所において、連携内容を協議した。
 - イ) 英国セインズベリー日本藝術研究所採録の日本美術および同研究に関する英語文献・記事情報を「東京文化財研究所総合検索」で利用できるようにした。2016（平成28）年2月に現地で進捗状況・今後の方針を協議・確認を行った。
 - ウ) 2015（平成27）年5月、7月、2016（平成28）年3月に国立西洋美術館と連携内容を協議し、美術展覧会図録所載文献情報のOCLC搭載のための協議を行った。
4. 資料閲覧室の公開・運営を行うとともに、文化遺産国際協力センターが架蔵していた図書を搬入し、資料閲覧室で一元管理・公開を行うようにした。

資料閲覧室の運営

・公開日数134日、利用者数のべ954人。

新たな資料の受け入れ数

・和漢書1,306件、洋書33件、展覧会図録・報告書等4,264件、雑誌1,580件（合計7,183件）

データベース公開件数

・「東京文化財研究所 総合検索」（34件のデータベースの統合版の拡充）

研究組織

○津田徹英、山梨絵美子、二神葉子、小林公治、塩谷純、小林達朗、皿井舞、安永拓世、橘川英規、城野誠治、福永八朗、田所泰（以上、企画情報部）、久保田裕道（無形文化遺産部）、早川泰弘（保存修復科学センター）、吉田千鶴子、片山まび（以上、客員研究員）